

高木菊三郎旧蔵の外邦図関係資料の仮目録について

文：小林 茂
目録：金 美英

2007年の「明治古典会、七夕古書大入礼会」に出品される、多数の外邦図およびそれに関する資料が『平成19年 明治古典会七夕古書大入礼会目録』（河村慎一郎編、明治古典会刊、2007年7月）に掲載され、外邦図研究の立場から大きな関心を持つことになった。これらを目録記載順に簡単に示すとつぎのようになる。

- 1993 番 日清戦時 中国各地地図
- 1992 番 山東省ドイツ租界膠州・高密近傍膠州市街地図（ベルリン版）
- 1994 番 満州十万分一地形図 陸地測量部 昭和7・8・10年製等 270枚程
- 1996 番 二十五万分一ミャンマー地図州 陸地測量部 昭和16～18年刊 70数枚
- 1995 番 外邦図一覧図・目録・資料 陸軍・陸地測量部 手書及印刷図各種
- 2000 番 インドネシア、セレベス及モルッカ諸島図集 参謀本部 昭和15～18年刊 75枚
- 1997 番 仏領印度支那十万分一図 陸地測量部 昭和15～18年刊、100枚余
- 1998 番 十二万五千分一ミャンマー地図集 陸地測量部 昭和17～20年刊 100枚余
- 2001 番 ニュー・カレドニア島図、1936年、パリ版、2面
- 1999 番 インドネシア小スンダ列島図集 参謀本部刊 昭和17・18年製 45枚
- 2002 番 ニューギニア島及パプア諸島図 参謀本部及各種特別部隊 昭和17～19年製 約90枚
- 2003 番 海図、太平洋諸島図集 日本水路部刊 昭和14年小改正版 21枚

このように多量の外邦図関係資料が出品される背景について、外邦図研究関係者に問い合わせたところ、高木菊三郎の旧蔵品を主体にしていると考えられるとのことであった（上記目録、1856番の「陸地測量部

沿革誌終末編稿本等」も参照）。地図の多くは第二次世界大戦時に印刷されたものであり、東北大学や京都大学博物館、さらにお茶の水女子大学に収蔵されている可能性が高いと判断し、とくに手書き図をふくむ1995番について購入を検討することとした。

1995番については、上記につづき「臨時測図部・支那駐屯軍司令部十万分一整備用図（手書大番トレース紙16枚綴）等四冊。南方地図目録（内2枚コピー版補足）一冊。大々判一覧図9枚ほか。一括」と記され、主なものについては、その表紙写真が掲載されていた。外邦図研究にとって重要資料である、高木の『外邦兵要地図整備誌』（原本1941年12月、リプリントは藤原彰編・解説、不二出版、1992年）の記載内容からみて、そのもとになった資料と予想された。また、上記の紹介文にみえる4冊のうち3冊は、目録掲載の写真にみえるタイトルからとくに重要な意義をもつと考え、購入にふみきった。納品後、安全のためこれらの図像をスキャンするとともに、仮の目録を作成した。

以下に示す目録は上記3冊に含まれる図のタイトルを略記したものである。まず10万分の1図にかぎられること、旧満州については日清戦争から満州国の成立期（1932年）までを、仮製図については日露戦争後から満州国の成立後（1933年）までを対象とするのに対し、中国製の地図を「改造」した図については、満州事変前後から日中戦争の開始期（1930～1937年）に限られることなどが注目される。いずれも外邦図作製の画期を反映していると考えられ、くわしい検討が必要である。ここでは、とりいそぎ、この仮目録を示して、参考に供したい。今後は関連資料との照合の上、本格的な目録と解題を準備したい。